

🔊 **幼穂形成期・出穂期は平年より2日程度早い見込み!** 🔊

～ 穂肥を適期に施用し品質向上を図りましょう! ～

1. JA えちご中越 ながおか地区管内の生育状況 (6月19日現在)

- ① 栃尾地域：草丈は並み、茎数は少ない、生育の進みは並み、葉色はやや濃い。
- ② 山古志地域：草丈は並み、茎数は少ない、生育の並み、葉色は並み。

	コシヒカリ			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (L)	葉色 (SPAD)
栃尾地区全体	37	229	7.6	39.2
山古志・太田	35	170	8.0	37.3
生育目標 (6/19)	37.0	300	7.8	38.0
目標比較 (%±)	101	76	▲0.2	12
前年 (R6)	40.0	325	8.3	39.4

2. 出穂期の予想と穂肥時期の目安

(6月19日現在 長岡農業普及指導センター)

		予 想		穂肥時期の目安 (出穂前日数)			施肥量
		幼穂形成期	出穂期	1回目	2回目	3回目※1	
コシヒカリ	栃尾平坦部	7月10日	8月2日	7月15~18日 (18~15)	7月23日 (10)	7月30日 (3)	けい酸入り エコ・5-5 専用穂肥 上限施用量 25kg/10a
	栃尾山間部	7月13日	8月5日	7月18~21日 (18~15)	7月26日 (10)	8月2日 (3)	
	山古志・ 栃尾半蔵金	7月15日	8月7日	7月20~23日 (18~15)	7月28日 (10)	8月4日 (3)	
	こしいぶき	6月28日	7月21日	6月28日 (23)	7月7日 (14)	7月18日 (3)	
もち	こがねもち	7月4日	7月27日	7月9~12日 (18~15)	7月17日 (10)	7月24日 (3)	
酒米	五百万石	6月24日	7月17日	6月27日 (20)	7月5日 (12)	7月14日 (3)	
加工用米	ゆきみらい	6月22日	7月15日	6月22日 (23)	7月2日 (13)	7月12日 (3)	尿素 1回目:4.5~5.5kg 2回目:4.5~5.5kg 合計9~11kg/10a

※1 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で3回目の穂肥を出穂の3日前(はしりが見えるころ)までに施用してください。

※ 早生品種は5月1日~5日稚苗移植、中晩生品種は5月10日~15日稚苗移植で予想しています。

田植えが5日前後すると、出穂は2日程度前後します。今後の気象条件で予想は変わります。

※ コシヒカリの栃尾山間部、山古志・栃尾半蔵金はJAえちご中越で追加記載。

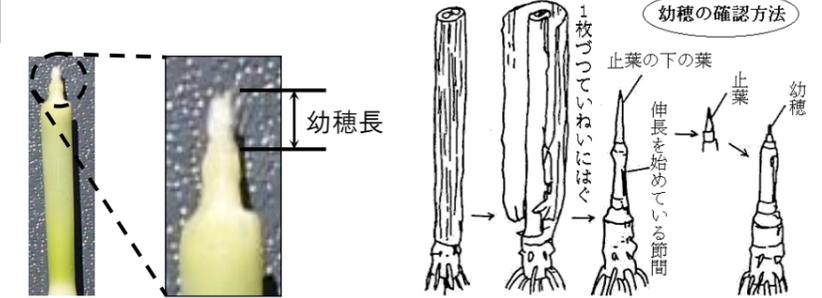
※ 新之助については後日発表の予定です。

3. 幼穂長からの穂肥時期の把握について

幼穂形成期や発育ステージの把握は、ほ場による生育差が大きいので、出穂予想を参考にしつつ、必ず幼穂長を確認し、適期に穂肥を施用してください。

幼穂長	出穂前	生育ステージ	穂肥時期
1~2mm	23~25日	幼穂形成期	こしいぶき等早生品種の1回目
1cm程度	約18日	花粉母細胞分化期	コシヒカリ等中生品種の1回目
10cm程度	約10日	減数分裂期	2回目の穂肥時期

カッターによる幼穂確認



◎茎の基部をカッターで切るか、手で剥いて幼穂を確認してください。

4. 「こしいぶき」の穂肥について

- ◎1回目穂肥は遅れない! ◎2回目は確実に実施する!
- ◎高温等により葉色が薄い場合は3回目穂肥を施用しましょう!
- ◎葉色 (SPAD値36、葉色カラスケール4.5) を維持! (8/10頃まで)

【出穂期が7月21日の場合】

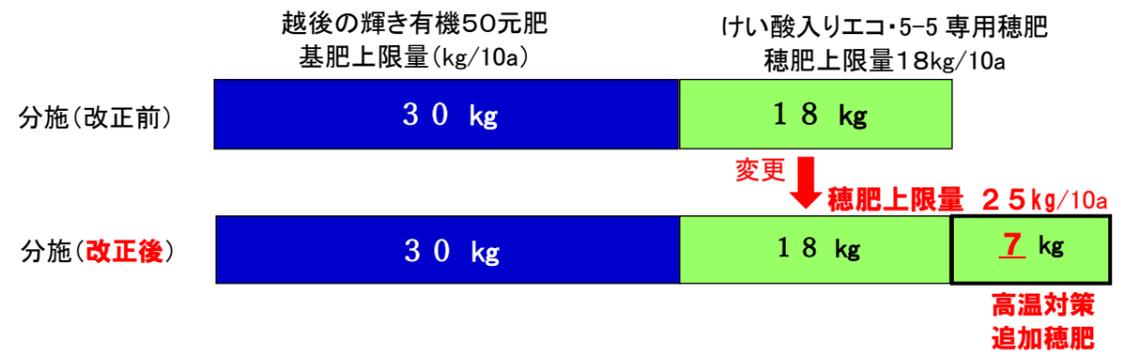
<こしいぶき穂肥施用時期>

- 1回目: 6月28日頃 (出穂23日前)
- 2回目: 7月7日頃 (出穂14日前)
- (3回目: 7月18日頃 (出穂3日前))

<けい酸入りエコ・5-5専用穂肥施用量>

- 1回目 8kg/10a
- 2回目 10kg/10a
- ※高温対策 3回目 7kg/10a

水稻慣行栽培基準の変更により高温対策として化学肥料使用量が増加されました。



※施用量等については、営農センターにご相談願います。

※大豆後・基盤整備後(盛土部)ほ場では、今後、窒素発現が予想されるため、原則、無施用か減肥するようにしましょう。

5. 「コシヒカリ」の穂肥

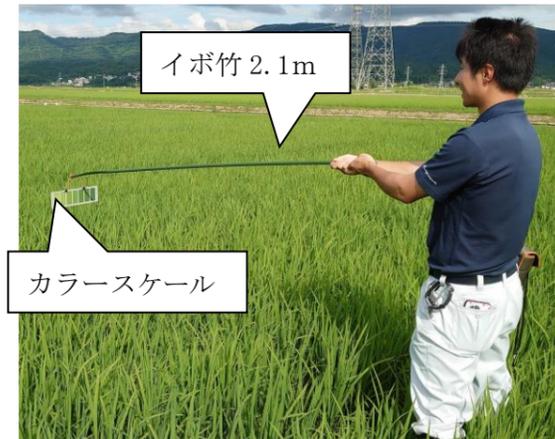
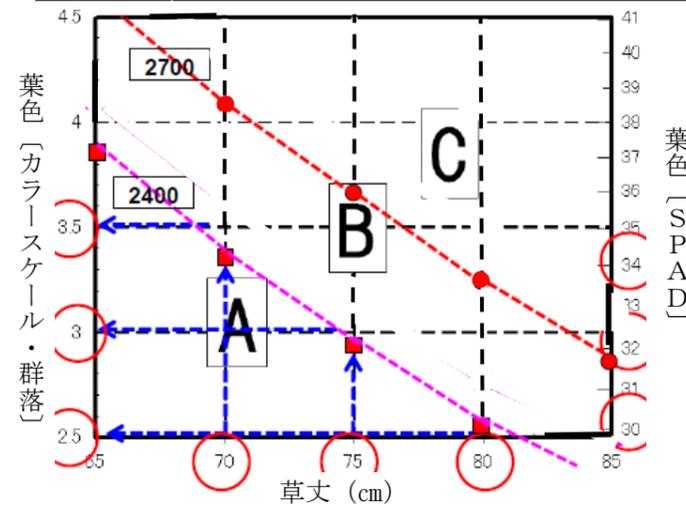
(1) コシヒカリ幼穂形成期（出穂23日前頃）の生育量（草丈と葉色の積値）による穂肥診断

①コシヒカリ1回目穂肥施用の診断とめやす

生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
A	○△倒伏が心配される場合は、穂肥時期を遅らせ、量を控えめに！	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）	◎出穂18日前に基準量（けい酸入りエコ・5-5専用穂肥8kg/10a）
B	×施用しない	×施用しない	○出穂15日前に基準量
C	×施用しない	×施用しない	×△施用しない。ただし、異常高温の場合は、早急に基準量

②幼穂形成期の生育量（草丈と葉色の積値）早見グラフ

ほ場の生育量はA、B、Cどのエリアですか？



カラースケールで葉色（群落）を測定しよう！

※出穂期にかけて低温・少照・多雨が見込まれる場合は、草丈が伸長して倒伏が大きくなる場合があることから、1回目穂肥時期を遅らせたり施用量を減じたり調整して下さい。

※高温・多照・少雨が予想される場合は、葉色がめやすよりやや濃い場合でも、出穂15日前に施用時期を遅らせて、**8kg/10a施用**して下さい。

(2) コシヒカリの2回目穂肥（出穂前10日頃）以降の施用について

- ① **2回目穂肥は、後期栄養を維持するため、専用穂肥10kg/10aを確実に施用**しましょう。
- ② 高温条件下では、2回目の穂肥は確実に施用し、葉色の維持、登熟向上を図り、品質低下を防止しましょう。
- ③ **出穂前10日頃の穂肥施用は、稈長の伸長に影響しないので、1回目の穂肥を施用できなかった場合においても、品質低下防止の観点から**確実に施用**しましょう。**
- ④ **1回目穂肥が出穂前18日より遅れた場合は、1回目穂肥の7日後に施用**しましょう
- ⑤ 高温の年や、穂肥を2回施肥しても葉色が薄い場合、窒素上限施用量内で**3回目の穂肥を出穂の3日前（はしりが見えるころ）までに施用**しましょう。

※今年度より水稻慣行栽培基準の変更により**高温対策**として化学肥料使用量が増加（エコの場合:化学窒素量上限3.5kg/10aまで）されました。**【詳細は表面参照】**

6. 雑草対策 ～斑点米カメムシの入り込む隙を無くす！～

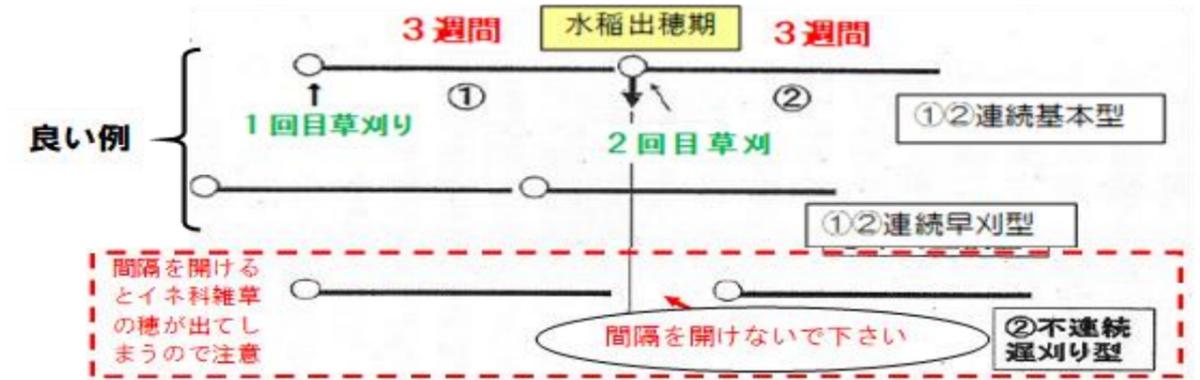
2つのポイント！！

●Check!

ポイント① 斑点米カメムシ類は稲穂よりもイネ科雑草の穂の方が好きな傾向があります。

ポイント② 草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制は最大で3週間です。

水稻の出穂期前後各3週間にイネ科雑草の穂を出させない雑草管理でカメムシの発生密度を下げ、水田内への侵入と加害を防ぎましょう。

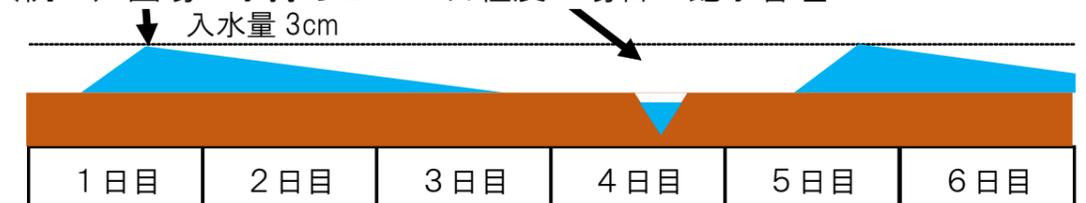


7. 中干し終了後の飽水管理

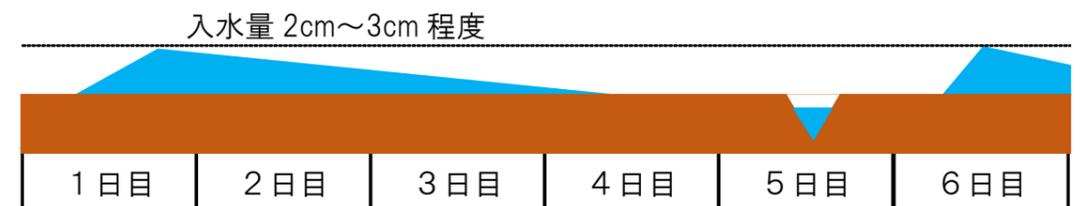
中干しは、出穂の1カ月前までには終了し、飽水管理へ移行して下さい。



(例1) 圃場の水持ち2～3日程度の場合の飽水管理



(例2) 排水不良圃場の場合の飽水管理（水持ち：5日以上）



<注意> 1回のかん水で3日以上湛水するような水持ちの良いほ場（水はけが悪い）では、湛水状態にせず、3日間湛水・3日間落水を繰り返す**間断かん水**とし、根の活力維持につとめてください。

☆間断かん水☆ 湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理法。（例：3湛3落 等）